〔尾張名所圖會前編七〕名産白雪糕（けくせつと）上切町河内屋喜平治の製する所にして、興米（おこし）の一種、尤上品なり、是を津島興米といふ、また府下押切町の美濃屋三右衛門が家にて製するを、三右衛門おこしと稱して名産とす、又熱田にて製するものを宮粔籹と稱す、古渡の川口屋にて製する所なり、皆宮おこし也、藤原明衡が新猿樂記に、諸國土産をいへる條に、尾張粔籹と記して、當國の産物その古き事しるべし、鹽尻に粔籹俗呼起米（オコシト）也、清人所謂歡喜團也、其製宜考帝京景物略熱田之市賣之、謂之宮起米と見え、又契沖が和字正鑑抄にも、粔籹、令起米などいふ名目あれば、すべておこしは當國名産の一品といふべし、

〔守貞漫稿後集食類一〕菓子

愚考、白雪糕ハ三都トモ、今モ往々有之、菓子店ニテ製之賣ル、又大坂鱣谷吉野五運ト云者、三臓圓ト云フ煉藥ヲ賣ル巨店也、當戸ニテ藥白雪糕ト云ヲ兼製シ賣ル、東武本町店ニテモ兼賣之也、

〔守貞漫稿後集食類一〕菓子

今世越州高田ニテ越ノ雪ト號クル干菓子ヲ製シ賣ル、江戸ニモ往々贈之者アリ、又江戸ニテモ諸所菓子屋專ラ是ヲ摸製ス、白雪糕ノ精美ナルモノ也、粉細カニシテ口中ニ納ルレバ、舌上ニ消ルコト雪ノ如ク、又唐糖ヲ用ヒテ味モ甚美也、其他似之ル製種々數ベカラズ、

〔倭名類聚抄十六飯餅〕煎餅　楊氏漢語抄云、煎餅（此間云如字）以油熬小麥麵之名也、

〔箋注倭名類聚抄四飯餅〕文昌雜錄、唐歲時節物、人日則有煎餅、唐六典膳部職、有節日食料、注、正月七日、三月三日煎餅、亦謂此也、（略）○中按鑿俗云煎餅盤、見金器中、卽造是物之器、

〔撮壤集下飲食〕煎餅（センヘイ）

〔易林本節用集世食服〕煎餅（センベイ）

〔物類稱呼四衣食〕煎餅　せんべい　出羽秋田にて、をへらまきと云、

〔薩州府志六土産〕煎餅　六條製之、故謂六條煎餅、或稱仙袂、又斯邊醒井之人家所製片餅、亦此類、而做近江國醒井之製者也、然煎餅經火、故其外麤面膨脹、而似鬼形面、故或謂鬼煎餅、片餅不歷火、故燒而食之、輕燒、氷雪燒、雪燒等雜品、近世所々製之、